

9:30 ▶ 9:35 開会のご挨拶 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

基調講演 K1 会場 ① 夢 扇 ・ 舞 扇
9:35 ▼ 10:35 コマツのICT戦略
コマツは、2001年より環境・安全・ICTをキーワードに、お客様の現場とより深く関わりながら、新たな価値を創造するイノベーションを実現してきました。

12:00 ▶ 12:45 ランチョンセッション 会場 ① 夢 扇 ・ 舞 扇

はじめる勇気Part.2～性能悪化の未然防止「予兆検知」とは～ L1 会場 ① 華 し ら べ
今まで以上にビジネスにおいてITが欠かさない今、使えるだけのシステムから、快適に利用できるシステムへの転換が急務となっております。

侵害を前提としたサイバーセキュリティ対策と、脅威インテリジェンスの活用 L2 会場 ① 華 う た げ
情報流出を引き起こす高度なサイバー攻撃の多くは、標的型メールから始まります。そのメールも、巧妙に偽装されて送られるため、従業員への注意喚起だけで防ぐのは困難です。

13:00 ▶ 13:50 ユーザー事例セッション 会場 ① 夢 扇

ワンチームで立ち向かう「データ活用推進」の取り組み A1 会場 ① 夢 扇
神戸製鋼グループは「素材」「機械」「電力」を三本柱とする複合事業体ですが、多くの事業でICT・データ活用によるものづくり力強化が課題となっています。

AI時代に勝てるサービスをつくる方法 ～グノシーのデータ経営戦略 B1 会場 ① 舞 扇
「AI(人工知能)が進化すると仕事が失くなる」本当でしょうか?情報キュレーションサービス「Gunosy(グノシー)」は、アルゴリズムを学ぶ大学院の研究室で生まれました。

14:05 ▶ 14:55 コンサルティングセッション 会場 ① 夢 扇

IoT時代のエクスペリエンスを協創する「Exアプローチ」 A2 会場 ① 夢 扇
IoT時代に向けて、ビッグデータ、AIなどの先端技術を活用したデジタルシフトが加速する中、新たな価値をさまざまなステークホルダーと協創する「組織の壁」を越えたアプローチが必要とされています。

「攻めのIT」へのシフトの実現に向けたアウトソーシング活用事例 B2 会場 ① 舞 扇
情報システムが企業における「事業戦略そのもの」と位置付けられる昨今、情報システム部門はこれまで以上に事業貢献に向けた高い成果と相反するコスト削減を要求されています。

15:10 ▶ 16:00 ユーザー事例セッション 会場 ① 夢 扇

IoTを活用した街づくりでのトータルソリューション A3 会場 ① 夢 扇
IoTを活用した街づくりでのトータルソリューション～塚口駅前再開発ZUTTOCITYでの取り組み～
塚口駅前再開発ZUTTOCITYのプロジェクトの中で、電力見える化による省エネ、地域通貨を活用した活性化、暮らしを便利にするサービスなど、街づくりのコンセプトにあわせ、社内の複数部門との連携や他社サービスとの組み合わせにより、トータルソリューションの提供を実現した取組み事例を説明します。

アジアと日本のITブリッジ、沖縄の可能性について～ニアショア推進を一例とした沖縄と企業の連携～ B3 会場 ① 舞 扇
沖縄県は、情報関連産業を観光リゾート産業と並びリーディング産業と位置づけ、独自の施策を行ってきた。今回、沖縄21世紀ビジョンに基づくIT人材の育成、インフラ整備、各種税制優遇措置など沖縄がアジアと日本のITブリッジとなるための取り組みを紹介し、また、その一例としてニアショアのプラットフォーム形成を推進している県内企業の取り組みを活用側の企業の声と共に紹介します。

16:15 ▶ 17:05 コンサルティングセッション 会場 ① 夢 扇

最新のセキュリティ脅威動向およびその対策 A4 会場 ① 華 う た げ ・ 華 つ ど い
今や企業にとってセキュリティ対策は最も重要な経営課題となっています。このセッションでは最新のマルウェアや攻撃事例を紹介し、近年のセキュリティ脅威動向を明らかにします。

進化を続ける人工知能～「人」と「AI」が拓く未来の可能性を考える～ B4 会場 ① 華 し ら べ
再び注目される「人工知能」がもたらす未来に向けて、富士通が研究開発してきたAI技術の数々を体系化した「Zinrai」と、これらのAI技術の適用をささえるICTソリューションを、事例を交えてご紹介します。

17:20 ▶ 19:00 交流会 (お気軽にご参加下さい) 会場 ① ② 夢 扇 ・ 舞 扇

特別講演 K2 会場 ① ② 夢 扇 ・ 舞 扇

10:45 ▼ 11:45 デジタル社会、絶え間ない変化を捉える
指数関数的成長といわれるテクノロジーの進化は、予想を超える時間軸で発展し、あらゆる領域に恩恵をもたらしています。その結果、ビジネス環境においては、従来では想像もつかない多様なプレイヤーが現れて、劇的な環境変化が絶え間なく起こり続けています。

IT部門を革新しよう! ～企業目的/戦略の確実な実行に向けて L3 会場 ① 華 つ ど い

企業のIT部門は、猛スピードで進化するIT技術をキャッチアップしつつ、セキュリティなどの脅威に備えながら、合わせてビジネスとの融合も図らなくてはならない時代になりました。変化に的確に対応するために、我々はまず何から始めるべきなのでしょう?ここでは、i コンビテンシ ティク ジョナリを用いた、As-IsとTo-Beを見据えた具体的な業務プロセスの明確化と、その結果起こる驚くべき効果についてお話しさせていただきます。

今だからこそ考える データセンターのBCP L4 会場 ① 華 し ず か

近年の巨大災害で、データセンターの「箱」を守ることでデータセンターを介した「業務機能」を維持することのギャップが明らかになりました。耐震構造や非常用発電等により箱を守ることができたとしても、燃料供給、ネットワークの維持、要員派遣などが可能か、拠点分散により業務機能を維持することができるかなどを検討する必要があります。

13:15 ▶ 14:55 JUASクロズアップセッション 会場 ① 花 苑

ワークスタイル改革 ～多様な取り組みから見てきた課題と効果～ C1 会場 ① 花 苑
JUASワークスタイル改革コミュニティファシリテーター
株式会社シーエーシー 経営統括本部 経営企画部 齋藤 学 氏

13:15 ▶ 14:55 ディスカッションテーブル 会場 ① 孔 雀

「新技術への取組」ってとても大切だけど・・・ D1 会場 ① 孔 雀
今だからこそ我々が成すべき事って何?
古河インフォメーション・テクノロジー株式会社 執行役員 標準化推進統括部長 續 公利 氏

今この組織で戦えますか? ～Let's メタモルフォーゼ!～ E1 会場 ① 飛 鳥

グローバル化、クラウド活用、セキュリティ強化、デジタルマーケティング・・・外部環境の変化や経営からの高まる期待に対し、ITリーダーは守りも攻めも両立して、スピードをもって応えていかなければなりません。

近年、注目が集まるワークスタイル改革。生産性向上からダイバーシティ実現まで幅広く、誰のためにどのような施策をどのように実践すればよいのか考える必要があります。ここではフリーアドレス、在宅勤務、モバイルや電話といったキーワードも取り上げつつ、成功事例だけでなく直面した課題について、すでに着手している企業事例を踏まえて、ディスカッションを行います。

本ディスカッションテーブルでは、「たぶん驚く程近い将来に動き出すデジタル世界の姿」と「それを実現する新技術への挑戦」や「将来ビジョンをビジネスとしていく人材の育成」の取組事例を交えながら、皆さまと活発な議論をしていきたいと思います。

本セッションでは、メタモルフォーゼ(=変態、変身)に動き出した企業の課題や取り組みの事例を通して、皆様と一緒に、脱皮に向けたヒントを考えていきましょう。

15:25 ▶ 17:05 ディスカッションテーブル 会場 ① 花 苑

情報子会社、〇〇始めました! ～攻めのIT実現へ!各社が始めた〇〇を聞こう!～ C2 会場 ① 花 苑
AJS株式会社 常務執行役員 ソリューション第1事業部長 赤司 浩文 氏

デジタルテクノロジーの波をどう乗りこなす? ～IoT、AI、etc...新技術を「本当に」活用していくために必要なことは?～ D2 会場 ① 孔 雀
Asaヒグループ ホールディングス株式会社 IT部門 セネラルマネジャー 知久 龍人 氏

足元のITを三方良しで再評価 ～新たなパラダイムに挑戦する企業事例を交えながら～ E2 会場 ① 飛 鳥
電源開発株式会社 総務部 IT推進室長 小泉 真吾 氏

ITの利活用の主戦場が広がり変化する中で、親会社から情報子会社への期待も、情報子会社自身の在り方も変化の真っ只中にあります。すなわち、今が価値の再構築をすす好機でもあります。このような中、情報子会社として各社がいろいろな取り組みを始めようとしています。ここでご紹介する事例は、まだ始動したものばかりです。いち早く小さくはじめて、課題に直面しても、繰り返して挑戦しようと思えます。もしかするとこの場で、企業を超えた取り組みが生まれるかもしれません。「すべて、初めは危険だ。しかし、とにかく始めなければ始まらない(ニーチェの言葉より)」一緒に始めませんか?

IoT、AI等の新たなテクノロジーについて、メディアに取り上げられない日はないと聞いていくくらい、その注目度は高く、またビジネス変革のトリガーとしての大きな可能性を秘めています。しかし、ビジネス効果を生み出し、真のビジネス変革を実現するためには、様々な課題があり、これまでもとは異なる考え方で、組織・人材・制度・仕組みを整備する必要があるので、必ずしも必要かあるのではないのでしょうか。本ディスカッションテーブルは、IT部門の立場から、IoT、AI等の新たなデジタルテクノロジーを「本当に」活用し効果を出していくための課題を整理し、解決に向けた方向性を議論してまいります。

このため、本テーブルでは「三方よし」、すなわち「売り手(IT部門)」、「買い手(事業部他)」、「世間(マルチステークホルダー)」の視点で企業のIT部門の取組みを見つめ直すことにします。本テーブルに参加する皆さんと共に、我々IT部門に求められる「新たな関係性の構築」、「従来にない価値追求」そして「それを乗り越える知恵」についてディスカッションを進めていきます。